

第21回ツール・ド・おきなわ高体連推薦選手成績報告書

- 1、期日：平成21年11月8日(日) 強化部会員：徳地末広
- 2、場所：沖縄県名護市周辺道路
- 3、高体連スタッフ
・徳地 末広 (奈良)榛生昇陽 ・大野 直志 (青森)八戸工業
- 4、高体連選手

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①黒枝 士揮 (大分)日出暘谷 | ⑧西川 尚吾 (東京)昭和第一学園 |
| ②元砂 勇雪 (奈良)榛生昇陽 | ⑨徳田 鍛造 (京都)北桑田 |
| ③笠原 恭輔 (埼玉)小松原 | ⑩山本 隼 (山梨)甲府工業 |
| ④木下 智裕 (神奈川)関東学院六浦 | ⑪池部 壮太 (大分)別府商業 |
| ⑤中里 仁 (埼玉)小松原 | ⑫榊原 健一 (愛知)半田農 |
| ⑥六峰 亘 (大分)日出暘谷 | ⑬安原 大貴 (奈良)榛生昇陽 |
| ⑦中井 俊亮 (奈良)榛生昇陽 | |

第21回を数える「ツール・ド・おきなわ」が11月7日(土)、8日(日)に行われた。推薦選手は当初予定の15人から13人になり、6日(金)にスタート地点のオクマに集合した。学校の授業や行事等で土曜日に参加する生徒もいたが、インフルエンザでの不参加はなく一安心したところであった。昨年のレース途中の集団コントロールにおいて、公平なレースができなかったため、主催者側に改善の要望を申し入れてはあったが、昨年と同様のレース形態で行われることになっていた。

【ジュニア国際ロードのゴール】 土曜日には推薦選手と他校の参加選手とを一緒にスタート地点に8時30分に集合させ、コースの危険箇所と走り方の注意点を説明し、約2時間30分(60km)のコースの下見をかねて練習をした。3班に分けてのロード練習は、チーム内でいつの間にかペースを上げていく走り方で、昨年からの強化合宿のメンバーが顔をそろえており、慣れた雰囲気非常に中身のある練習ができていることに成果を見ることができた。午後はライセンスコントロールで名護に移動、昼食後エリートの選手のタイムトライアルを見学しながら、開会式を待った。夕食前に最終ミーティングを行い、レースでの積極的な走りを全員に伝え、特に2年生は来年のことを頭に入れて走ることを指示して早めに選手を休ませた。

7日(日)は5時30分朝食、ホテルを7時に出発し、スタート地点で各自アップを始める。ジュニアは、エリートの選手が通過してスタートとなるので、時間がはっきりしないので、思うようにアップできないということが事実としてある。

スタート前に、外国選手を逃がさないことと、積極的な走りを指示した。レースが始まると選手が名護市民会館前に戻ってくるまでは、レースの情報を知ることができないのでアナウンスの情報待つことになる。レースは序盤からペースが速く、去年同様に、エリートの第二集団に追いついてしまい、審判に一時ストップさせられてしまい、逃げていた選手も差がなくなってしまう。タイム差をあけて再スタートをしたが、またもや止められてしまい、選手には不満が残ったレースになった。レースは再スタートされたが、香港チーム二人が逃げを試み、高体連チームの笠原を含め数人の選手が追いかけるが展開になったが、追いつくことができず、結局一人をゴールまで逃がしてしまうことになった。メイン集団からゴール前3kmぐらいから元砂が逃げ出し2位でゴール、ゴールスプリントで3位以下が決まる展開になった。来年度に関しては、レース形態が改善されなければ、強化部会としても考えなければならない問題であると感じた。多くの成果と問題点が得られた大会でしたが、怪我もなく無事に終えることができました。参加生徒を引率していただき、練習日から当日までご協力を頂いた先生方に厚くお礼を申し上げます。